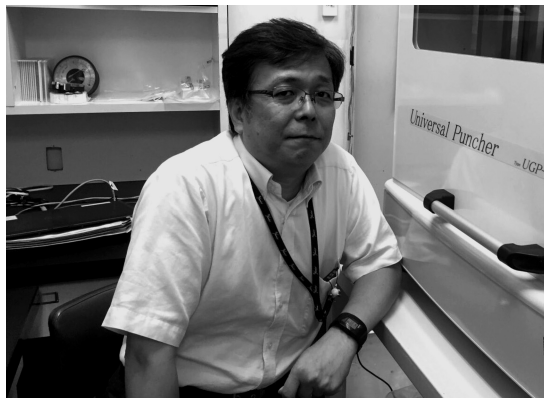


昭和 59 年度入学
 広島県警科学調査研究所
 森川俊雄さん



○ 総合科学部を選んだ理由は何ですか？

既存の学部ではない所に行きたかったからです。ひとつのことを集中的に学ぶ学部は色々ありましたが、総合科学部は、文理を問わず幅広い分野が学べます。私は高校時代、迷いに迷って文系に進みましたが、理系にも興味がありました。総合科学部は、文系で入学試験を受けても、入学後、理系の分野に進むことができることを知り、この学部を選びました。

○ 大学時代、何を研究されていきましたか？

睡眠について研究していました。人が起きてから寝るまでの脳波を記録してその変化と人の行動の変化がどう対応しているのかを明らかにする、といった研究です。今、「睡眠と健康」の授業をされている林光緒先生が私の3つ上の先輩で、大学院時代、先輩と私は、睡眠の権威であった堀先生から研究の指導を受けていました。

○ 睡眠について研究することに決めたいっかけは？

最初は社会心理学に興味を持っていてその分野へ進もうと思いましたが、○年生のときに、どの研究室に進むのかを決めるために訪問した研究室の1つに、たくさんパソコンや機械が置いてある研究室がありました。それらの機械で記録した脳波がとても美しかったこともあり、「この研究室に入ろう！」と決めて、睡眠の研究をはじめました。

○ 科捜研に就職するにはどうすればいいですか？

科捜研の職員は研究職の地方公務員なので公務員試験を受ける必要があります。ただし、募集がないと試験は実施されません。また、科捜研には5つの研究室（法医、化学、物理、心理、文書）があり、各研究室ごとの募集となります。だから、それぞれの分野の専門的な知識がないと少し厳

しいかもしれません。

○ 他分野の人と関わる機会はありませんか？また話す際に気にかけている事はありますか？

私たちの主な仕事は「証拠資料から事件解決につながる情報を引き出すこと」なのですが、研究室ごとにやっていることがそれぞれ専門的なので、直接的な関連はないですね。たとえば、法医はDM、化学は薬物毒物となるので。ただ、科捜研は総合科学部とよく似た「異分野の集合体」とも言えますので、他の研究室がどういうことをやっているかについて興味を持ちながら仕事をすることで、鑑定に関する新たなアイデアが生まれたりします。

○ 自分のコアの授業以外の科目をとったりされましたか？

自分の両親が教師だったこともあり教員免許は取りたいと思いました。主として

歴史、他には考古学、民俗学、地理学、気象学、気候学が好きだったので、睡眠の研究をしながら免許は社会科にしよう。だから、今の仕事に直接かわかる生命科学などの授業は全くとっていませんでした（笑）。よもや自分が、科捜研に就職するなんて夢にも思っていなかった。

○ 森川さんは大学時代に生命科学を勉強されていなくておっしゃいましたが、そういう分野に就職する事に不安はありましたか？

逆に「新たなことが学べる」という期待の方が大きかったですね。科捜研に新採用された職員は法科学研究所という所で3カ月トレーニングを受けます。私は法医学のトレーニングを受けました。全然知らないことばかりだったから本当に面白かったですよ。そもそも、科捜研の仕事は「法科学」という分野に区分されるんですが、日本には「法科学」を直接学べる学部はない

んです。アメリカにはあるらしいんですが。だから同期採用者が大学で何を学んでいたとしても、「法科学という分野においてスタートラインは同じなんだから」と思っていました。総合科学部で、文系理系いろいろな分野の授業を受けていたから、そういう垣根を感じなかったのかもしれない。

○ 森川さんが大学時代に熱心に取り組んでいたことは何ですか？

研究で忙しかったかな……。3年で特殊実験をやって、4年で卒論の実験。大学に残りたかったので、大学院に行こうと決めていたんですが、卒論がまだ終わってないのに、その年の5月の学会の抄録を提出しなければならなかったりして、ホント大変でした。学会、論文、学会、論文の研究室でした。ただ、この時の苦労が就職してから役に立っていると思っています。

OB・OG紹介

○ 英語で大学の先生になることをあきらめたんですか？

修士2年にあがるとき、堀先生から「どうするの？」と聞かれて、即座に「就職します！」と答えてしまいました。：。本当に英語には苦勞させられたので、「大学で教えるなんてとても無理だな」と。ちょうどその時、科搜研の職員募集の話を知りました。当時科搜研を知っている人はほとんどいなかったし、私自身全く知らなかったんですが（笑）。募集枠は法医で自分の専門ではなかったけど、漠然と「白衣を着た仕事がしたい」と思っていたので採用試験を受けることにしました。就職して教室を出ることについて先生は何も言われなかったんですが、後から人づてに「とても残念がられていた」という話を聞き、もうちょっと頑張ればよかったのではないかと思うことがあります。

○ 本は読まれますか？

おすすめの本を教えてください。

司馬遼太郎の『坂の上の雲』です。『竜馬が行く』は2冊目くらいで挫折したので「司馬遼太郎ファン」と言えるかどうかは微妙です。大学時代に読んだ本の記憶はほとんど無いのですが、当時は今より時間がゆっくり流れていたような気がします。インターネットとかなかったですし。ちょうど音楽CDが出始めたころでした。最初の下宿には風呂がなかったし、テレビや電話がない人もいました。今はもう携帯やスマホなしというのは考えられませんが、それらがなくてもちゃんとやっていけていたんですね。

○ 最後に、総合科学部生に一言お願いします。

文系でも理系でも、興味のあることはなんでも学べばいいと思います。「広く浅く」も悪いことはありません。学んだ知識は

いつかどこかで必ず役に立つ時がきます。

せっかく「世界にひとつ」の広島大学総合科学部に入ったんですから、その特徴を生かして、既成の学問の枠のとらわれない新たな分野を切り開くぐらいの気概で頑張ってください。

【担当】

村上有希 岩西香穂
中村優希 西村百加
水野愛香 田代 涼
若山陽香